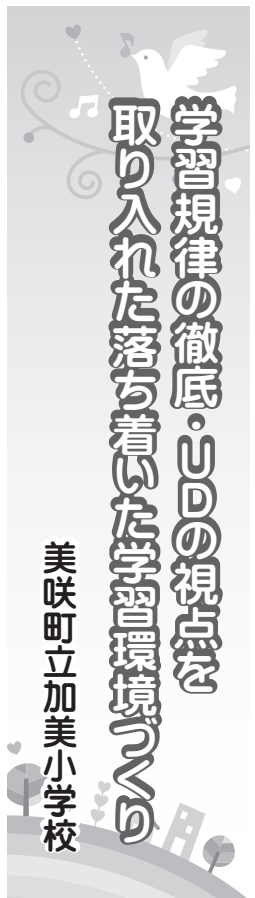


# 広げよう！優良実践の輪！

～平成30年度 優良実践校の取組～

取組 3



## 1. はじめに

本校は全校158名の岡山県のほぼ中央にあたる美咲町の学校です。

本校では落ち着いた学習環境をつくるため、平成24年度から特別支援教育の視点に立つて教職員一丸となって授業改善、環境改善に取り組み、現在児童は落ち着いて毎日を過ごしています。

## 2. 取組の概要

### (1) 加美モデルによる指導の統一

児童の荒れや落ち着かない授業への対策の一つとして平成24年度から「加美モデル」を作成し、今年度も細かな修正を加えながら職員で共通理解しています。これまで統一しきれなかった指導内容のブレをなくし、学校教職員が一体となって課題に対応するため、授業中の決まり、持ち物など学校の決まり、特活

などの進め方をきちんと明文化するとともに、始業式には必ず「加美モデル」の確認をする時間をもち、児童にわかりやすく説明したり、再確認したりしてきました。

### (2) UDによる授業改善

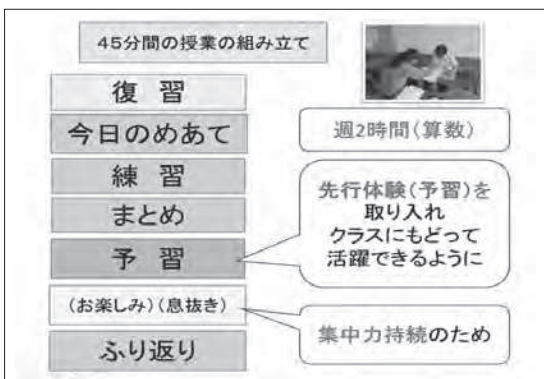
平成26年度から27年度には、県の『魅力ある授業づくり徹底事業』の研究指定を受け、ユニバーサルデザインの授業づくりに取り組みました。特に「視覚化」「共有化」に力を入れて、すべての教室で特別支援教育の観点に立った環境整備を行うとともにICTなど視覚に訴えかける授業形態をとり、すべての子どもが学びに参加し「わかった」「できた」という達成感をもてる授業づくりに取り組みました。今ではどの学校でも取り組んでいることだと思いますが、「加美モデル」の徹底を全職員で共有し、同じ歩調で子ども

もたちに対応することで、学校生活に安心感が生まれました。

### (3) 特別支援教室の取組

平成26年度から27年度には、県の「多様な学びの場『特別支援教室』事業」も同時に研究指定を受けておりました。

特別支援教室は県でも先進的な取組であったため、模索しながら行いました。本校では、校内の通常学級にいる特別な支援を必要としている児童に対して、週2時間、保護者の了解をとって算数の時間に、別教室で個別指導をしました。わからないことがわかるという喜びが学びに向かう力の育成につながりました。



特別支援教室での授業の流れ

## 3. 成果と今後のさらなる取組の充実

本校児童は現在落ち着いた学校生活を送っています。そこで、平成30年度からは「次なるステージ」として「幸せを創り出す力」をテーマに、児童の自主性をさらに伸ばし、主体的に生きていく力をつけるためのカリキュラムマネジメントを職員一丸となって進めています。

(校長 梶並裕子)



特別支援教室での個別指導

運営において気をつけたことは、「遅れを取り戻す学習」だけでなく、本学級に戻ったときも活躍できるように先行的な内容を取り入れたり、パソコンを取り入れて楽しく学んだりする工夫をしました。